

地域に生きる●職人に訊く●技から伝わる心意気

技術力と機動力を生かし 「攻め」の経営で邁進する



代表取締役 徳永明彦

熊本県出身。高校卒業後は西鉄に入社。実業団サッカーで8年間プレーし、全国大会にも出場した経歴を持つ。退団後は管工事業に入り、約30年にわたって勤務。平成12年に独立して「ダック技建」を興した。

平成12年にスタートした「ダック技建」。給排水、衛生、空調、消防、電気、医療関係などの設備工事全般をトータルに手掛けているのが同社の特徴だ。また顧客の要望にスピーディに対応するため、24時間体制を敷いてスタッフが待機。その幅広い技術力と機動力が各方面から注目されている、北九州市で最も元気な企業の1つである。

山下 社長は昔、アマサッカー選手として活躍なさっていたそうですね。

徳永 中学、高校時代はずっとサッカーに打ち込んでいて、卒業後は西鉄の実業団チームでフォワードを務めていました。残念ながら、日本リーグ（現在のJリーグの前身）入りを賭けた決勝戦で敗れてしまい、それを機に8年間のサッカーにピリオドを打ったのですが…。そして西鉄を去った後、現在手掛けている管工事の業界に入ったのです。その頃から「小さな規模でもいいから、50代には自分の会社を持ちたい」と考えていました。

山下 管工事を選ばれたのには、何か理由がおありだったのですか？

徳永 一口に「管」と言っても、給排水や空調など様々な種類がありますが、いずれも建物の内部環境を整えるためには欠かせない要素だと思ったからなのです。建物を人間の身体に置き換えて考えると、管工事というのは「血管」をメンテナンスする仕事。血管が詰まると人間の身体のあちこちに異常が起こるのと同じで、水や空気を循環させる「管」がきちんと機能しないと、建物にもたちまち異常が表れます。一般家庭やオフィス、病院な

どのアメニティが注目されている時代でもありますし、需要は大きい業界だろうと。それで、管工事の会社に勤めて技術を学び、平成12年、52歳にして「ダック技建」を興したのです。山下 若い頃に抱いていた夢を、みごと実現されたのですね。独立後は、主にどんな管工事を手掛けているのですか？

徳永 給排水、衛生、空調、消防、電気から医療関係に至る



徳永社長は、実業団チーム所属のサッカー選手として活躍していた

DK

株式会社 ダック技建

福岡県北九州市八幡西区引野2丁目5-6

TEL 093-645-3233

FAX 093-645-3232

PROFILE



まで、設備工事を幅広く手掛けています。ここまで手広くやっている同業者も少ないでしょうが、当社の場合は幸い優秀なスタッフが揃っていますので、どんな現場も安心して任せておけるのですよ。

山下 主な取引先は、建築会社などになるのでしょうか？

徳永 はい。それも、大手ゼネコン2社とお付き合いさせていただいています。時には、こちらのほうから「こんな仕事があるのですが、一緒にやりませんか」と提案したりもするのですよ。

山下 えっ、仕事はゼネコンさんから一方的に発注されるものだとばかり思っていましたか…。

徳永 一般的にはそうなのですが、当社がお客様から直接、仕事の依頼を請けることもあるんです。たとえば、病院の医療機器関係や院内感染防止のための設備工事。これは、以前に色々な病院で、半ばボランティアのように雨漏り修理などのお手伝いをしていたことから、院長や理事長と親しくなり、そのご縁でいた

いた仕事です。また、年商50～500億もの大手企業が軒を連ねる「北九州青果市場」の工場建設を全面的に請負うことになったのも、人とのつながりからでした。山下 ほう。市場ですから、給排水や衛生設備の工事も非常に大規模なものなのでしょうね。

徳永 ええ。高度な冷蔵冷凍設備に加えて、効率の良い搬送システムの構築も絡んでくるため、さすがに私共1社の力だけではお客様にご提案しきれません。そこでゼネコンさんのノウハウを活用して工場建設計画の全体プランを練り、当社の技術を尽くしてトータルに管工事を担当させていただく、いわば「攻め」の提案営業をおこなっているわけです。

山下 幅広い技術力が、お客様にもゼネコンさんにもメリットをもたらしていると言えるでしょう。その他に、御社のカラーと言いますと、どのような点になりますか。

徳永 電話1本で24時間いつでも対応できる体制をとっていることでしょうか。

「サッカーに培われた 不屈の姿勢を感じました」

「中学の頃から実業団時代を通じて、サッカーチームではフォワードとしてプレーしていた徳永社長。そのせいか、現在のお仕事においても「攻め」の姿勢が節々にうかがえます。常に真っ直ぐに相手と向き合い、時にはぶつかることすら恐れない——それもサッカーと同様、自分の技術に自信をもってこそできることなのでしょう」



山下 規介 (俳優)

先ほど申しましたように、空調や水や電気の設備は、建物にとっての生命線ですから、1時間でもトラブルが起こると甚大な影響が及びます。その点、当社は北九州地区なら1時間以内にスタッフが現場へ急行できる体制をとっていますので、ご安心いただけるでしょう。

山下 技術力、機動力にすぐれている御社のますますのご活躍を、私も応援させていただきます。本日はありがとうございました。

(取材/平成15年6月)

専一心意

1人1人が、かけがえのない「人財」

「人とのつながり」を大切にする——それが徳永社長の信条だ。その信条はお客様に対してのみならず、社内においても当てはまっている。「世の経営者の中には、会社の資産を増やそうと躍起になる人もいますが、私なら、その分を迷わずスタッフに還元したいと思います」とは社長の談。実際に、昨年はスタッフ全員を引き連れてオーストラリア旅行へ出かけたそうだが、そうした自分なりのねぎらいを継続的に形にしていきたい、と社長は言う。

スタッフたちを家族のように大事に思う社長。その根底に流れているのは、人材1人1人を、「タック技建」のかけがえのない“人財”と捉える意識にほかならない。

